

## ウィズセーフオープニング記念講演 女も男も幸せになる働き方を求めて

講師：竹信三恵子（朝日新聞編集委員）

■開催日時：平成22年9月11日（土）午後2時～4時

■参加人数：90名

ウィズセーフオープニング記念講演として、ジャーナリストの竹信三恵子さんをお招きしました。これまでパートタイマーや派遣労働など非正規雇用については女性の問題として捉えられていましたが、今や男性や若年層にも及び、社会問題として顕在化してきました。貧困や格差が進んでいる現代社会の現状と問題点を、女性の生活と労働に関わる問題に長年取り組んでいる竹信さんに、男女共同参画の視点で、女性も男性もゆとりを持って働き、暮らしていける社会の在り方について語っていただきました。女性が働き続けるこ



とが難しい社会ではなく、働き続けることが可能な社会の仕組みが必要であること。また、格差が拡大する社会状況を変えるために、私たちがこれからの人生をどのように生きるべきか、生き方の指針を得ることができました。

## 性暴力被害者たちの素顔 —立ち上がる選択— 写真展&講演会

講師：大藪順子（フォトジャーナリスト）

■開催日時：平成22年11月21日（日）午後2時～4時

■参加人数：41名

性暴力被害者の多くは、被害に遭ったことを誰にも相談できません。被害に遭ったこと自体が女性の恥であり落ち度であるかのように言われる社会では、被害者は適切なケアやサポートを受けることができず、泣き寝入りを強いられます。加害者は罪を問われず、被害は後を絶ちません。

大藪順子さんは、自分自身の被害経験を語り、また多くの被害者の肖像をカメラに収めて、性暴力の実態を訴える活動をしてきました。センターでは、性暴力を私たちの社会からなくしていくためにはどうすればいいのか考えるため、大藪さんの写真展と講演会を開催しました。



性暴力は、人生を根底から覆すような破壊力を持つ暴力です。しかし、もう一つ忘れてはならないのは、被害者は、ただ被害に遭ったというだけの人ではなく、そこから立ち上がり、それぞれの人生を生きている、誇り高いサバイバー（生き延びた人）であるということです。

人には、傷ついても回復する力があります。しかし、それは一人ではできません。「あなたは一人ではない」と言ってくれる誰かの存在があってこそ、人は生きる力を取り戻すことができるのです。被害者を孤立させないためには、まず私たち一人一人が被害者に「あなたは悪くない」と確信を持って言えるよう、性暴力の現実を知る必要があります。そのことを強く思った講演会でした。

